

二〇二三年度入学試験問題

国

語

(五〇分)

第二回 二月二日実施

〔注意〕 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。  
問題用紙も提出しなさい。

吉祥女子中学校





「私」は祖母の後を引き継いで、人から頼まれたさまざまな文章を代筆する「代書屋」の仕事をしています。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数指定のあるものは、句読点やかっこなどもすべて一字に数えます。なお、問題の都合上、もとの文章から一部省略した部分があります。

「大変ですね」

私もこれまで、字はその人そのものだと思って疑わなかった。無骨な人は無骨な文字を書き、繊細な人は繊細な文字を書く。一見几帳面に見えても、大胆な文字を書く人は性格にもそれが現れる。きれいだけでもなんだか冷たい字もあれば、整っていないのに焚き火に手を当ている時みたいな温もりを感じる字もある。

そんなふうには、字には、それを書く人の人柄がそのまま出ると思い込んでいた。けれど、それは間違いだった。カレンさんのように、どうしたって上手に字が書けない人も存在する。字が汚いから心も穢れていると考えるのは、あまりに暴力的すぎる。

「もうすぐ、ハハの還暦なんです」

カレンさんは続けた。もう、カフェオレボウルの柚子茶はほとんどなくなっている。

「夫と相談してプレゼントを用意したのですが、それに添えるメッセージカードが、どうしても書けなくて。それを書いていただけないでしょうか」

きつと悩みに悩んだ末に、ここまで来てくれたのだろう。こういう人のお手伝いをしないで、何が代書屋だと言えるのか。

私は、いつになく力強く言った。

「お引き受けいたします」

私が座ったままお辞儀をすると、カレンさんが安堵の笑みを浮かべる。

注 \*還暦……満六十年で生まれた年の干支に還ることから、数え年六十一歳のこと。

カレンさんは、カードも自分で見つけて持ってきていた。

「きれいなカードですねえ」

見たこともない美しいカードに、思わず目をみはった。

「これ、ベルギーの小さな紙屋さんで見つけたものなんです。ハハのイメージに合うかと思って」  
紙の表面に、植物の葉っぱの模様がうっすらと型押しされている。

「昔のものかしら？」

紙を汚さないよう気をつけながら、窪んだ葉っぱの形を指でなぞった。

「多分、そうみたいです。お店の方がおっしゃるには、百年以上前に作られた紙だろう、って」

「やっぱりそうなんですね。なんていうか、肌触りが違います」

本当は、その紙を頬つぺたに当てて頬ずりしたい心境だった。高貴な猫の背中を撫でているような、優雅な気分になる紙質だった。

「お急ぎですか？」

私がたずねると、

「時間はまだあるんですが、実はわたくし、明日からまた海外へのフライトが入っているんです。なので、できれば……」  
早い方がいいのだろう。

「わかりました、少しだけお時間いただきますが、本日中にお渡しします」

カードの文字を書くくらい、簡単なことだ。しかも、文面はすでにカレンさんが用意してくれている。

「ありがとうございます！ 助かります。実家が小町なので、わたくし、後でまた寄らせていただきますね」  
カレンさんが席を立つ。

立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花。

カレンさんは、まさにそんな言葉を体現する人だった。<sup>④</sup>

だいぶ陽がかげってきたし、お客も来なさそうなので、いつもより気持ち早めに店を閉める。

机の上を片付け、さつきカレンさんが持ってきてくれた彼女の書いた五十音の紙を広げた。それから、カレンさんの面影を思い起こす。このふたつを、うまく融合させなくてはならない。

ただ形が整っているだけが、美しい字ではないのだ。そうではなく、温もりがあり、微笑みがあり、安らぎがあり、落ち着きがある。そういう字が、私は個人的に好きだった。

カレンさんは、決してツンツンとしたただの美人ではない。カレンさんが美しいのは、その飾らない心だ。だからこそ、カレンさんらしい、カレンさんにしか書けない字を書きたかった。まるで、カレンさんそのものであるかのような。

<sup>⑤</sup> 筆記用具は、万年筆ではなく、ボールペンにした。

同じカードが二枚あるなら試し書きもできるけれど、カードは一枚しかない。しかも、百年も前の紙なのだ。ヨーロッパで作られた紙だったら、基本的には万年筆のインクがにじむようなハプニングはないだろう。けれど、古い紙だけに何が起るかわからない。インクがにじんでしまったら、取り返しがつかない。

だから、せっかくカレンさんがベルギーで見つけたカードを無駄にしないよう、今回はボールペンで書くことに決めた。ただ、ボールペンといっても、インクの出が不均一な安いボールペンではなく、私が子供の頃から愛用していたロメオのナンバー3を使う。

ロメオは、大正三年に伊東屋のオリジナルとして発売された筆記具で、万年筆とボールペンが発売された。私が使っているのはその当時のボールペンで、もとは先々が愛用していたものだ。

ロメオのナンバー3を手にし、カレンさんが用意してくれた文面を、何度か紙に書いてみた。

けれど、簡単な仕事のはずなのに、逆に思い通りの文字が生まれない。イメージ通りの字がスッと書けることもあれば、百枚書いても二百枚書いても、どうもしっくりこない時もある。要するに、字を書くという行為は、生理現象と一緒だった。自分の意志で

どんなにきれいに書こうと思っても、乱れる時はどうしたって乱れてしまう。地面をのたうちまわるようにして、どんなに  
(Ⅰ) 転 (Ⅱ) 倒しても、書けない時は書けない。それが、文字という怪物だった。

そんな時、ふと耳元で先代の声があった。

⑦ 文字は、体で書くんだよ。

確かに私は、頭だけで書こうとしていたのかもしれない。

外を見ると、すっかり陽が暮れて暗くなっている。ツバキ文具店のガラス戸に額や鼻を押しつけるようにして、夜が私を覗き込んで  
⑧ いるような気がした。その真っ黒い闇の中に、ガラスに映った私の顔が、ぼっかりと上弦の月のように浮かんでいる。

先代が書いた「ツバキ文具店」の文字は、裏側から見てもやっぱり惚れ惚れするくらい美しい。決して活字のように整っているのではなく、少し手を抜いたように見える塩梅が絶妙だった。

さてと。

私は意識して、おへその下の丹田に気持ちを集めた。

ちようどいい位置に本番のカードを置き、ロメオのナンバー3を再び持つ。それから、ゆっくりと目を閉じた。書く内容は、もう  
すでに紙を見なくても脳裏に刻まれている。

⑨ 私は、カレンさんの面影に近づいた。

カレンさんの右手に、そっと自分の手のひらを重ね合わせる。目を閉じたまま、深呼吸するようにカードの上に文字を綴った。

ゆっくりと目を開けると、そこにはまるで自分で書いたのではないような見慣れない文字が並んでいた。ボールペンで書いたのも、正解だったかもしれない。カレンさんから漂う清らかな懐み深さのようなものが、ふわりふわりと立ちのぼってくる。私は、完成したカードを封筒に収めた。

夜の七時をまわる頃、カレンさんは再びツバキ文具店に現れた。素材のよさそうな紺のコートと白いマフラーが、よく似合っている

る。

「こんな感じに書いてみたのですが……」

⑩ おそろおそろカードを差し出すと、カードを見た瞬間、カレンさんが歓声を上げた。

「自分が書いたみたい！」

少女のようなはしゃぎようだった。

「ありがとうございます」

カレンさんは、テーブルの上で私の手をぎゅっと握りながらお礼を言う。外がそうとう冷えているのか、カレンさんの手は冷たくなっていた。

「そんな大したことでは……」

⑪ 恐縮するように、私は言った。けれど、カレンさんはますます感極まった様子で、

「私、ずーっとこういう字が書きたかったんです」

そうつぶやいて、涙ぐんだ。

「お役に立ててうれしいです」

言いながら、私まで、なぜか涙ぐんでしまう。

正直、本番のカードに目をつぶって書いている時のことは、ほとんど覚えていなかった。とにかく、カレンさんの心と一緒に書こうと必死だった。

涙を拭いながら、私は言った。

「こちらこそ、ありがとうございます。私ずっと、誤解してたんです。字が美しくないのは、きっと書く人の心がそうさせるんだ、って。でも、それって、偏見だったんだってことが、カレンさんと出会って、よくわかりました。だから、本当にごめんなさい」

喋しやべっているうちにまた涙があふれてしまつて、止まらなくなつた。

「謝あやまらないでくださいよー」

カレンさんも、顔をくちやくちやにして泣いている。でも、崩くずれているはずの泣き顔までが魅み力りき的なのだ。カレンさんはきつと、自分の字のことを、いつもいつも気にしていたのだろう。

「また、いつでもいらしてくださいね。私わたしでよければ、お力ちからになりますので」

そう言うと、カレンさんはまた泣きだした。

先代せんだいが言っていた影武者かげむしやというのは、きつとこういうことなのだろう。代書屋を継いでよかった。

(小川 糸『ツバキ文具店』)



問一 ~~~~~線ア「無骨な」・~~~~~線イ「恐縮する」とはどのような意味ですか。もつとも適当なものを1〜4からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。

ア「無骨な」

- 1 何事にも投げやりに接する
- 2 態度に一貫性がない
- 3 強気で荒々しい
- 4 素朴で作法を身につけていない

イ「恐縮する」

- 1 申し訳なく思う
- 2 思わず打ち消す
- 3 全くあきれかえる
- 4 おびえ縮こまる

問二 ||||線「( I ) 転 ( II ) 倒」は四字熟語です。( I ) ( II ) に当てはまる漢字を一字ずつ書きなさい。

問三 ——線①「あまりに暴力的すぎる」とありますが、どういうことですか。もつとも適当なものを次の1〜4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 字の汚さと心の汚さに関連があると考え、字が汚い人への思いやりに欠けているということ。
- 2 字にはその人の性格が必ず現れていると考え、根柢が確かではなく強引であるということ。
- 3 字と人格に深いつながりがあると考えることは、確実性がなく安易な考え方であるということ。
- 4 人柄と字に結びつきがあると考えることは、誰もが信じきっている思い込みに過ぎないということ。

問四 —— 線②「いつになく力強く言った」とありますが、なぜこのように言ったのですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 代書屋として依頼されたことを断るのは決して許されないといい義務感をもっているから。
- 2 悩んでいるカレンさんの手助けをすることは、今後の自分自身のためになると感じたから。
- 3 思い悩んだ末に訪れたカレンさんの力にならねばならないという使命感にかられたから。
- 4 心がきれいなカレンさんの必死の訴えを聞いて、やっと自分が認められたと思ったから。

問五 —— 線③「お引き受けいたします」とは何を引き受けるのですか。二十文字以上三十文字以内で具体的に書きなさい。

問六 —— 線④「そんな言葉を体現する人だった」とありますが、どのような人のことですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 しぐさや立ち居振る舞いがもたらすイメージが刻々と変化し、不安定な印象を与える人。
- 2 しぐさや立ち居振る舞いがもたらすイメージが気取っており、人の目を気にして行動する人。
- 3 しぐさや立ち居振る舞いがもたらすイメージが時によって変わり、さまざまな美しさを見せる人。
- 4 しぐさや立ち居振る舞いがもたらすイメージが可憐で気高く、手が届かない花のように思われる人。

問七 —— 線⑤「筆記用具は、万年筆ではなく、ボールペンにした」とありますが、万年筆にしなかったのはなぜですか。二十文字以上三十文字以内で書きなさい。

問八 —— 線⑥ 「文字という怪物」とありますが、文字をどういうものにとらえていますか。もつとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 簡単な書体であるほど戸惑ってしまい、いくら時間をかけても上手に書けないことがある不気味なもの。
- 2 いつでも自分が書きたいと思ったように書けるわけではなく、時に自身を苦しめることがあるもの。
- 3 自分の予想通りになることが少なく、場合によっては書く気力を失わせるほど人間離れた強い力をもつもの。
- 4 事前にどんなに練習したり工夫したりしても、書き終えるまで結果を予期することが難しいもの。

問九 —— 線⑦ 「文字は、体で書く」とありますが、どういうことですか。もつとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 思いやりや優しさをこめるだけでなく、体全体を使って緊張しながら書くこと。
- 2 依頼してきた相手のことをあれこれと考えて、試行錯誤しながら書くこと。
- 3 論理的に考えるのではなく、相手を思い浮かべて自然体で力まずに書くこと。
- 4 ただ美しく書くことを目的にするのではなく、相手が喜んでくれるように書くこと。

問十 —— 線⑧ 「ツバキ文具店のガラス戸に額や鼻を押しつけるようにして、夜が私を覗き込んでいるような気がした」とありますが、この表現の説明としてもっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 夜を擬人化して表現し、約束の時間が迫っていることを示している。
- 2 事実をはっきりと言わないことで、現実の辛さをあいまいにしている。
- 3 比喩を用いることで、追いつまなかった私の焦りを明確に表現している。
- 4 暗いイメージを強調し、この先のうまくいかない展開を暗示している。

問十一 —— 線⑨ 「カレンさんの面影に近づいた」とありますが、なぜそのようにしたのですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 カレンさんの文字が汚いことを心配するハハを、カレンさんの代わりにメッセージカードを書くことでなくさめたかったから。
- 2 頑固ではあるがカレンさんのことを気にかけるハハに喜んでもらえるように、ハハが納得する完璧な文字を書きたかったから。
- 3 一枚しかないカードで失敗はできないので、脳裏に刻まれている書く内容を間違えないように、集中する必要があったから。
- 4 控えめで美しいカレンさんのイメージを呼び起こし、ハハの誕生日を心から祝うカレンさんの思いを文字に込めたかったから。

問十二 ——— 線⑩「おそろおそろカードを差し出す」とありますが、なぜそのようにしたのですか。もっとも適当なものを次の1から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 カレンさんが期待しているものと差がある気がして、でき上がりに確信がもてなかったから。
- 2 自身としては納得のいくカードになったが、カレンさんが気に入ってくれるかどうか不安だったから。
- 3 少し後悔が残る出来になったので、カレンさんに渡したくないという思いがあったから。
- 4 先代の教え通りに書けたか自信がなかったため、カレンさんに怒られるのではないかと心配だったから。

問十三 ——— 線⑪「また涙があふれてしまって、止まらなくなった」とありますが、なぜですか。もっとも適当なものを次の1から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 カレンさんの役に立つことができたという喜びを感じるとともに、文字への思い違いを反省したから。
- 2 代書屋の仕事に慣れていない自分でも、必死に取り組んだことは人の心を打つのだと思いついたから。
- 3 カレンさんの字に対する引け目を取り除いたことに感激し、他には何も考えられなくなったから。
- 4 代書屋の仕事が成功したことで今までの不安だった気持ちがなくなり、自信をもつことができたから。

問十四 ——— 線⑫「影武者」というのは、きっとこういうことなのだろう」とありますが、「私」は代書屋の仕事をどのように考えていますか。五十字以上六十字以内で説明しなさい。

## 二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数指定のあるものは、句読点やかっこなどもすべて一字に数えます。なお、問題の都合上、もとの文章から一部省略した部分があります。

人の悩みの中でもっとも大きいものは、対人関係の不具合でしょう。

ただ、それは人間が複雑なコミュニケーションを取れるようになったからこそ生まれたものです。

それでは、人間はなぜコミュニケーションができるのか。それを知ると悩みを解決する糸口になるかもしれません。

チンパンジーとヒトを大きく隔てる特徴の一つとして、「複雑な言語を話す」というものがあります。チンパンジーがうまく音を作れず、「キー」とか「ワー」といった鳴き声しか発することができないのに対し、ヒトは子音\*しいんと母音\*ぼいんを組み合わせた非常に複雑な音を作って互いにコミュニケーションすることができま

す。この差がどうして生まれるかというと、ヒトはチンパンジーに比べ、体の成長時における喉のどの成長期が長いからです。より時間をかけて、より大きく、より複雑な構造に成長する喉を獲得したことによって、ヒトは複雑な音を出すことができ、そのおかげで言葉が生まれました。

実は、チンパンジーとヒトの遺伝子はわずか数%の違いしかありませんが、そのわずかな違いに含まれるのが「FOXP2」という遺伝子です。この遺伝子がどんな働きをするのか明確なことはまだわかっていませんが、「複雑な言葉を話せる」ことに関係しているとされています。FOXP2の働きが悪い家系に生まれた人間は言葉が話せないことが確認かくにんされているのです。

① 遺伝子の数%の違いが、言葉の発明に関わる違いを生んでいます。そしてそれは、チンパンジーとヒトとの知性の大きな差になっているのです。

遺伝子というものはこうしたダイナミックな動きをするものなのです。

FOXP2の働きによってヒトは複雑な音を作り、言葉を話せるようになりましたが、他の類人猿\*はどうだったのでしょうか？

歴史の教科書でおなじみの「ネアンデルタール人（ホモ・ネアンデルターレンシス）」は、実は遺伝子が解読されています。

（中略）

私たちホモ・サピエンスの祖先とネアンデルタール人は、かつてヨーロッパで出会っています。そのときに、私たちの祖先から見てネアンデルタール人は、知性が劣<sup>ちよ</sup>って見えただけではないかと思われれます。

それは、彼<sup>かれ</sup>らが作る道具を見れば、ある程度わかります。ネアンデルタール人も道具などを作ってはいますが、私たちの祖先の側が、より洗練<sup>せんれん</sup>されていました。私たちの祖先からネアンデルタール人に技術移転があつた可能性はありますが、逆はなさそうです。もしかしたら実際に、少しバカにしていたかもしれません。

しかし、実は私たちのゲノムにも、ネアンデルタール人のゲノムが一部入っています。進化の歴史の中でネアンデルタール人は滅<sup>ほろ</sup>んでしまったので、私たちの中にある彼らの遺伝子は薄<sup>うす</sup>まる一方ですが、それでもまだ、私たち東アジア人の遺伝子の約3%、ヨーロッパ人の約4%がネアンデルタール人由来なのです。

どんな遺伝子が今に残っているかと言えば、ネアンデルタール人の持っていた遺伝子のうち、ホモ・サピエンスにとって有利だったものが残っています。ネアンデルタール人は「氷河の民<sup>たみ</sup>」と呼ばれ、とても寒さに強い性質を持っていました。ホモ・サピエンスは彼らの遺伝子の中でも寒さに強いものを受け継<sup>つ</sup>ぎ、寒さに適合しました。

このように、<sup>②</sup>遺伝子には可塑性<sup>かそせい</sup>や柔軟性<sup>じゅうなんせい</sup>があるのです。

注 \*子音……発音の時、呼<sup>よ</sup>気が唇<sup>くちびる</sup>・歯<sup>は</sup>・舌<sup>しほ</sup>・口蓋<sup>くちがひ</sup>などでさえぎられたり、せばめられたりして生じる音。

\*母音……声帯<sup>しんたい</sup>の振動<sup>しんどう</sup>によって生じた声<sup>こゑ</sup>が、口<sup>くち</sup>の中で通路<sup>つうろ</sup>を妨<sup>さまた</sup>げられずに発せられる音。現代の日本語ではア・イ・ウ・エ・オの五音。

\*類人猿……人間<sup>じんげん</sup>に最も近く知能<sup>ちのう</sup>が発達<sup>はつたつ</sup>している猿類<sup>えんるい</sup>。うしろ足<sup>うしろあし</sup>で半直<sup>はんちよく</sup>立<sup>た</sup>または直立<sup>ちよく</sup>して歩くことができ、大型<sup>おほい</sup>で尾<sup>お</sup>はない。ゴリラ・オランウータン・チンパンジーをさすが、広義<sup>くわぎ</sup>にはテナガザル類<sup>てんがざるるい</sup>も含む。

結果的にネアンデルタール人は滅びました。彼らがなぜ滅んだのかに、私は今もとても関心があります。何より、彼らは今の私たちほど脳の問題を抱えていない可能性があったのですから。

複雑な言葉をしゃべれないネアンデルタール人は、一度に伝えられる情報は少なかったはずなのですが、その分言葉に感情をたくさん乗せられたと思われれます。私たちが抱える大きな問題にコミュニケーションのすれ違いがありますが、ネアンデルタール人の心と心の距離は、非常に近かったかもしれません。そうしたコミュニケーションができる彼らの群れは、一体どんなものだったのでしょうか。彼らにとって周囲の世界はどう見えていたのでしょうか。

彼らは、間違いなく我々と違った世界観、生命観、人間観を持っていたはずですが、彼らのほうが自然に近いし、より動物的に生きていたはずですが。

しかし、どうしたわけか、常に脳に悩みを抱えながら生きていく私たちを、進化は選んでしまった。なぜ悩みがちな私たちが生き延びて、私たちに比べればストレスなく生きていたはずのネアンデルタール人が滅んだのか。これは本当に、謎なのです。

④ 遺伝子の観点では、私たちの体のベースは魚です。サルやチンパンジーよりも遙か以前のボデイープランとして、私たちは魚の体から進化しました。魚を色々と改造して生まれたのが人間というわけです。

私たちは進化の歴史の中で、色んなものを流用、転用、誤用してきました。その結果として、母なる海を離れ、陸上を二足歩行できるようになりました。

人体には面白い特徴がたくさんありますが、先ほど紹介した「FOX P2 遺伝子」によって、喉が発達したというのもその一つです。その喉と、舌、歯、唇を組み合わせることで、豊かな発声ができます。こうして偶然、声を手に入れたことで、人間は複雑なコミュニケーションができるようになりました。

しかし、それだけが人のコミュニケーションを可能にしたわけではありません。進化した点は他にもあります。たとえば、人間は「白目」を手に入れることで、相手の視線がどこに向いているかがわかるようになりました。これを「アイ・ポ



インテイング」と言います。この特徴は哺乳類では人間だけで、誰が見ているか、視線がお互いになるようになったのです。これによって、個体間で反射が起こるようになりました。つまり、誰かに黙って見つめられると、私たちが「なぜ私を見ているんだろう？」と反応するように、<sup>⑤</sup>視線のみで成立するコミュニケーションが生まれたのです。

さらに、いよいよ今の体になってから、人間は泣くということも覚ええました。

涙を分泌する生物は他にもいますが、感情の表現として涙を流す生物は人間しかいません。なぜ、このように進化したのかは非常に興味がありますが、これも一つの偶然だったでしょう。

<sup>⑥</sup>涙は、自分の状態を群れに知らせるためのサインの役割を果たしています。

たとえば学校のクラスでいじめに遭ったり、職場で組織全体に関わるような大きな失敗をしてしまったり、パートナーを失ったりしたときのように、人間関係で悲しい出来事があったことを、群れに涙で表現することができます。

さらに涙が素晴らしいのは、泣いている本人は涙をこぼすことによって「カタルシス」を感じ、一時的にその悲しみから解放されることです。涙は泣いている人を、内面的にも、群れの中からも助けてくれる、便利な液体だと言えるでしょう。

こうした私たちの体に様々な改造をしていったのはゲノム、つまり遺伝子です。私たちのコミュニケーションや認知は、脳だけでなく、身体性によっても育まれているのです。

注 \*ベース……基礎となるもの。

\*ホディープラン……その動物を特徴づける基本的な身体の構造。

\*カタルシス……抑圧された精神的苦悩を、言葉や行為として外部に表出することで消失させる浄化作用。



人の脳の性質について知っておくことも、あるいはこの世界をとらえる上でヒントになるかもしれません。

私たちの脳から出ている神経の3分の1は、目のために使われています。視神経や目玉の動きを制御するための神経などが主なところ\*です。

人間の脳はなぜこんなに「見る脳」に進化したのか。その秘密は、絵や記号、文字などのグラフィックの発明にあったと考えられます。元々私たちの先祖は声、つまり音でコミュニケーションしていました。しかしグラフィックが生まれると、それらを使っても交流し始めます。すると、見る記号と、聞く音が脳内で意味的な対応をするようになるのです。それまでは「聞く脳」であったはずが、「見る脳」にコミュニケーションが移っていくわけです。そこから人間の見る脳はどんどん発達していった、グラフィックも発達したのです。(余談ですが、多くの動物は音による「聞く脳」の構造を持っていて、モノクロの視界を持つ犬は、「匂い脳」\*です。)\*  
⑦ その中でも、人間の「見る」ことに最大の効力を発揮させたものは文字でした。

現代社会に生きる私たちは文字情報で多くのコミュニケーションを行っています。たとえばツイッターなどは文字で成立している巨大なコミュニケーション媒体\*ですし、友人や家族との連絡もメールが多くを占めるようになりました。

今こうして読んでいただいているこの本も、文字のコミュニケーションです。特に本は保存状態がよければ非常に長い時間を越え、読者と文字を通してコミュニケーションすることができます。

文字の発明と「見る脳」の共進化によって、私たちは巨大な知性を育み、蓄積し、伝えることに成功したのです。

しかし、人間の脳は、聞くことより見ることを選んだために、文字や言葉の意味合いに翻弄\*されるようになりました。

ネアンデルタール人は歌って話したかもしれない。もしかしたら、人間よりも円滑なコミュニケーションができたかもしれない、という話をしました。

一方で、人間は見る脳を獲得しました。しかしそれによって、人の心がわからなくなった部分があるはず\*です。

「あの人が私のことをどう思っているか。悪く思っているのではないか」などと不安に思うことがあると思いますが、そうしたとき

にはメールや言葉の意味ばかりを考え過ぎてしまっているのではないでしょうか。

直接会って声を聞く。表情を見る。そういうことで相手のことがもう少し理解できると思います。

逆に人に何かものを伝えるときも、直接言うのが一番です。それも、脳内であれこれ考えた言葉ではダメで、「思わず脳外にこぼれ出てしまった言葉」のほうが伝わります。

私は、大学の教員で、授業やゼミを持っています。そこで学生にものを言ったり、注意したりするときには、あまり脳内でごちゃごちゃ考えずに、ポツと浮上<sup>ひきあ</sup>してきたピュアな言葉を言うようにしています。

⑧ 人間が「見る脳」を持っていてからこそ、体から発する声がコミュニケーションにおいて大切なのです。

(長沼 毅『考えすぎる脳、楽をしたい遺伝子』)

注 \*グラフィック……………写真や絵画を多用し視覚に訴えるもの。

\*モノクロ……………白と黒だけの単色画。

問一——線①「言葉の発明に関わる違い」とありますが、チンパンジーとヒトにはどのような違いがありますか。もつとも適当な

ものを次の1〜4から一つ選び、番号で答えなさい。

1 チンパンジーはうまく音を作れず鳴き声しか発することができないのに対して、ヒトは喉が発達したことにより複雑な音を出して言葉を話すことができる。

2 チンパンジーは喉が小さいために近くの仲間にししか鳴き声がとどかないが、ヒトは喉の作りが複雑なため広域の仲間とコミュニケーションションすることができ。

3 チンパンジーとヒトでは声に作用する遺伝子が大きく異なるため言葉の発達に差が生まれ、結果としてチンパンジーよりもヒトの方が高い知性を備えるようになった。

4 チンパンジーとヒトでは喉の成長に関わる遺伝子がわずかに異なるが、チンパンジーが複雑な構造の喉をもちながらも言葉を話せないのに対して、ヒトは言葉を話せるようになった。

問二——線②「遺伝子には可塑性かそせいや柔軟性じゅうなんせいがあるのです」について、「可塑性」とは「変形する性質」のことですが、遺伝子の可

塑性や柔軟性を表わすことがらとしてもつとも適当なものを次の1〜4から一つ選び、番号で答えなさい。

1 進化の歴史の中で、知性の劣ったネアンデルタール人は滅んでしまった。

2 「氷河の民」の性質を受け継いだホモ・サピエンスが、寒さをしのいで生き残った。

3 ホモ・サピエンスの方が、ネアンデルタール人よりも洗練された道具を使っていた。

4 チンパンジーよりも、ヒトの方が体の成長時における喉の成長期が長かった。

**問三** ——線③「今の私たちほど脳の問題を抱えていない」とありますが、今の私たちが抱えている問題とはどのようなことですか。文中の★の部分の言葉を用いて四十字以上五十文字以内で説明しなさい。

**問四** ——線④「私たちに比べればストレスなく生きていたはず」とありますが、なぜこのように言えるのですか。もっとも適当なもの、を次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 ネアンデルタール人同士は心の距離が近かったため、単純な言葉でコミュニケーションをとることが可能だったから。
- 2 ネアンデルタール人は言葉により感情をこめることができ、コミュニケーションの悩みが少なかったと考えられるから。
- 3 ネアンデルタール人は動物的な感覚をもっていたため、単純なコミュニケーションしかとることができなかったから。
- 4 ネアンデルタール人の遺伝子には柔軟性があり、ストレスを感じても的確に処理する能力をもっていたと考えられるから。

**問五** ——線⑤「視線のみで成立するコミュニケーション」とはどのようなものですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 白目によって相手の視線を感じることができ、その相手へ反応するようになるもの。
- 2 白目があることで、相手の複雑な気持ちを視線だけで理解できるようになるもの。
- 3 白目のおかげで視線の向きが分かり、お互いの考えがはっきりと分かるようになるもの。
- 4 白目が発達したことでどこを見ているかが分かり、良好な関係を築けるようになるもの。

問六 —— 線⑥ 「涙は、自分の状態を群れに知らせるためのサイン」について答えなさい。

(I) どういうことか説明したものととして、もつとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 涙を流すことで、一時的にその悲しみから解放され、気が晴れること。
- 2 涙を流すことで、他の生物と人間に差があることを証明できること。
- 3 涙を流すことで、辛い思いをしているということを他者に知らせること。
- 4 涙を流すことで、群れの仲間に対して好意的に思っていることを伝えること。

(II) このサインにあてはまらないものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 サッカーの試合でミスをした少年が、つい涙をこぼした。
- 2 大好きなジュースをこぼした子どもが、激しく泣いている。
- 3 仲の良かった友人とけんかしたあと、母親のもとで泣いた。
- 4 ペットの犬が病気になってしまい、布団の中で涙を流した。

問七 —— 線⑦ 「人間の「見る」ことに最大の効力を発揮させたものは文字でした」とありますが、文字によってできるようになっ

たのはどのようなことですか。「……こと」に続くように——線⑦より後の文中から二十字以内でぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

問八 ―― 線⑧ 「人間が「見る脳」を持っているからこそ、体から発する声がコミュニケーションにおいて大切なのです」とありますが、どういうことですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 人間は視覚的な情報を重視してそれにとらわれてしまいがちだからこそ、直接会って話すことを大切にすべきだということ。
- 2 人間は遺伝子的に複雑なコミュニケーションをすることができるところこそ、話すことを大切にすべきだということ。
- 3 人間は知性を蓄積することができるからこそ、常に相手のことをより理解するように努力する必要があるということ。
- 4 人間は周囲の目を気にしがちだからこそ、それに負けずに自分自身の明確な気持ちを他者にうったえる必要があるということ。

問九 ―― 線⑩ 「文字や言葉の意味合いに翻弄ほんろうされるようになりました」とありますが、本文全体の内容をふまえて、あなたの周りでこれにあてはまる具体例をさがし、どのように翻弄されたのか九十字以上百字以内で説明しなさい。「翻弄」とは「思うようにもてあそぶ」という意味です。

三

次の1～6の——線のカタカナは漢字で書き、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

- 1 ケワしい表情。
- 2 港にキテキが響き渡る。
- 3 主人にチュウセイを誓う。
- 4 ボウエンキヨウをのぞく。
- 5 熱弁を奮う。
- 6 テーマについてトウギを重ねる。

問題は以上です



二〇二三年度 入学試験解答用紙〔国語〕(五〇分)

第二回二月二日実施  
吉祥女子中学校

受験番号
氏名
得点

問一	ア
イ	
問二	I
II	
問三	
問四	

問五	
問六	
問七	
問八	
問九	
問十	
問十一	
問十二	
問十三	

問十四	
問七	
問八	
問九	
問十	
問十一	
問十二	
問十三	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	
問七	
問八	
問九	
問十	
問十一	
問十二	
問十三	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	I
II	
問八	

問七	
問四	
問五	
問六	I
II	
問八	

問九	
問七	
問四	
問五	
問六	I
II	
問八	

4	1
ボ ウ エ ン キ ヨ ウ	ケ ワ  し い
5	2
奮	キ テ キ
う	
6	3
ト ウ ギ	チ ユ ウ セ イ

--

--

--

--

--

--

--

--

--

--

--